

## ガーナでそろばんプロジェクト 82号(2019年2月15日)

★★ カンニング疑惑とボールペンの行方に思うこと ★★

2月に入ったかと思ったら、もう半月が過ぎてしまいました。確か前号の出だしもこんな出だしだったかと思えます。“一月は行く、二月は逃げる、三月は去る”まさにその通りです。

1月のそろばん教室は3回でした。去年の9月以降、そろばん教室に通う子どもが増え本場にうれしい限りです。うれしいのですが、増えることと起きることがあります。“答えを写す。写させる。”の行為です。1月もその疑惑がありました、はっきりとしたものでないけれど、長い間やってきたからこそわかる事。写させる行為は他者のためになっていない、写す行為は自分のためにならないことをどうすればわかってもらえるのか。そろばん教室だから、それが一番わかるはずなのに、なかなかわかってもらえないでいます。そして、見せる側の“自分は他者より優れている”という態度に苛立ちを覚えてしまうのです。苛立ちを覚える自分にとっても器が小さい人間に思え、自分に対しても腹がたつてしかたがないのです。“泣いて笑って怒って”ガーナ生活・活動はこの繰り返しです。

1月のそろばん教室は基礎プリントが終わりごほうびでボールペンを貰った子どもが二人いました。ボールペンを渡す時、“どうかこのボールペンが親に取られることなくそろばん教室と学校の授業で使われますように”と毎回願わずにはいられません。これも過去の経験から思わずにはいられない事なのです。やはり器がちいさいのでしょうか。

報告者 TOSHIKO

協賛

トモエそろばん様

